

五反田川流域の埋没樹化石について(第一報)

正岡 栄治[※] ・ 増淵 和夫^{※※}

On buried fossil wood around the GOTANDA RIVER
Eiji MASAOKA, Kazuo MASUBUCHI

1984年3月14日、川崎市多摩区栗谷3-9687-1の井田裕進氏所有地から発掘された埋没樹化石2点が、同氏より科学館に寄贈された。

本化石は、ビル新築工事に伴うボーリング調査中に発見されたものであり、樹種は東京大学農学部森林植物学教室能城修一氏によって、次のように鑑定された。

試料No.1 カシ類

試料No.2 カヤ

これらは、いずれも暖温帯のいわゆる照葉樹林の代表的な樹種とされているものである。

年代の測定については、現在、学習院大学木越研究室に依頼中である。

発掘地は、多摩川支流の五反田川に沿って発達する沖積地に位置している。層序は、ボーリング柱状図から、層厚約1.5mの盛土層、沖積粘土層、砂礫層、上総層群の生田砂層からなっている。発掘層は、沖積層最下部から砂礫層にかけてと思われる、地表下約2.6~3.2mからはカヤが、地表下約3.2mからカシ類が産出しており、年代測定との比較が待たれる。

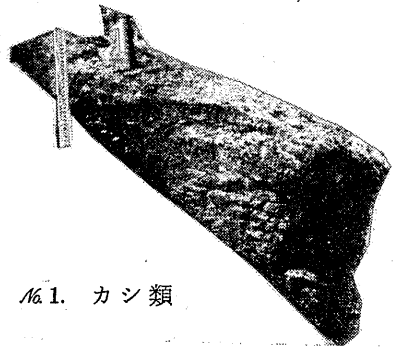
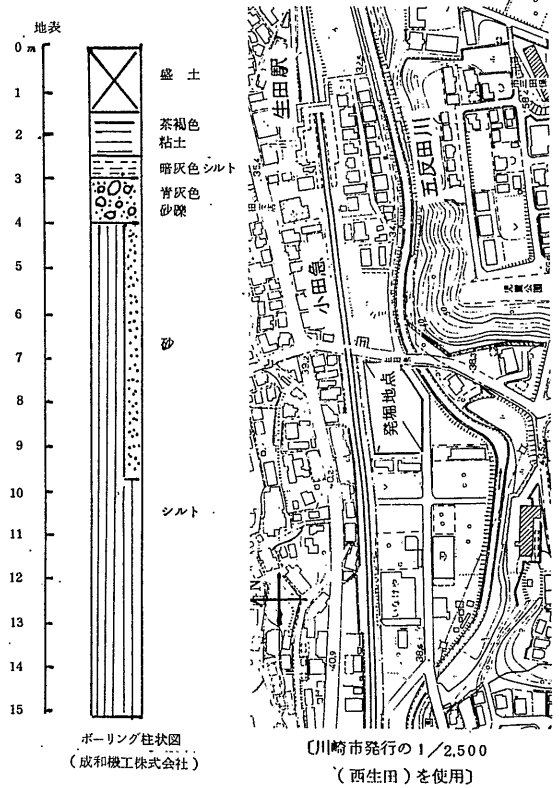
市内、沖積層出土の埋没樹化石としては、筆者の一人である正岡(1982)がある。

謝 辞

本化石を寄贈され、また搬入にも御協力をいただいた井田裕進氏に深く感謝いたします。

文 献

正岡栄治(1982) 川崎沖積地の多摩川旧河床から出土した埋没樹について 川崎市文化財調査集録第17集



No.1. カシ類

※ 都留文科大講師
※※ 川崎市青少年科学館指導係職員